



ろうさいニュース

第297号 平成21年5月1日

■ 浜松労災病院

新任紹介：呼吸器科副部長 奥田雅人

平成21年4月より、呼吸器科に、主に呼吸器外科担当として、赴任してまいりました。専門は、肺癌を含む肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸など、呼吸器外科全般です。

簡単な経歴ですが、京都大学胸部疾患研究所附属病院呼吸器外科を皮切りに、関西電力病院呼吸器科、兵庫県立塚口病院呼吸器科、京都大学附属病院呼吸器外科、彦根市立病院呼吸器科、田附興風会北野病院呼吸器センター外科で呼吸器外科医としての研鑽を積んで参りました。京都大学病院においては伊達洋至教授のもと、肺癌患者以外に生体肝移植患者も担当し、最先端の外科治療にも参加してきました。4年間にわたる大学院生活では、理化学研究所神戸発生再生科学総合センターにおいて、西川伸一副センター長のもと、血管内皮細胞の分化や、リンパ節の発生を通じて、いくつかのケモカインの役割などについて研究してまいりました。こうしたこれまでの経験を活かして、肺癌等の疾患の発見から治療まで、大胆さと緻密さをもって、浜松及び近隣の地域の方々の健康に寄与できるよう治療にあたっていきたいと思っております。この近隣一帯の一般開業医を含む呼吸器内科医の治療の質は高く、呼吸器外科がそれについていけないと聞いております。当院呼吸器内科部長の豊嶋幹生医師、呼吸器外科部長の田久康隆医師とともに、少しでも呼吸器外科の治療の質を上げるように頑張っていきたいと思えます。皆様、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いたします。



放射線科：当院の64列CT検査の紹介

当院は64列と4列のマルチスライスCTの2台で検査をしています。64列CTはCT-Angioを始めとし検査全般に、4列CTは治療計画・単純CT検査に使用しています。

64列CT導入にあたり検査プロトコールが大幅に変わりました。64列マルチディテクターより得られる広いスライス幅、0.35秒という非常に早いスキャン速度により、臓器の中で一番動きが激しくCTでの描出が困難だった心臓の検査を非侵襲的に行うことが出来るようになりました。広範囲のスキャンも一度に行うことが出来るようになり、息止めも端時間で済み、患者様の負担を減らすことが出来るようになりました。CT-Angio検査では3Dワークステーションを用い3次元画像などの画像処理を行い診断に役立つ情報を提供しています。

地域連携への貢献

当院では遠隔読影システムを活用し、連携病院に短期間で検査結果（所見及びCT画像）を提供しています。平成20年4月からフィルムレス運用となり、CD（viewer付）に画像を保存し連携病院に渡す事が多くなっています。これにより、フィルム保管などで場所を取っていた事も解消されたと思います。また、連携先病院でのスライス画像や3D画像観察もパソコンで扱えるため必要に応じて諸調処理も可能となったと思います。検査依頼日時についても、出来る限り連携先の都合にあわせ検査を行っており、単純撮影は当日受入もしています。また、造影検査についても同意書、問診表などを用意して頂ければ当日検査も可能です。開業医の先生方のご要望に答えられるように日々努力していきたいと思えます。

臨床画像例（CT-Angioのプロトコルを使用し3Dワークステーションで画像処理をした症例）



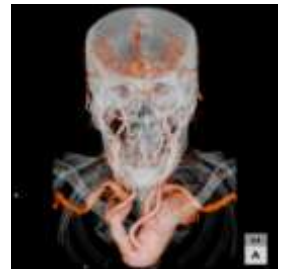
下肢動脈



冠動脈

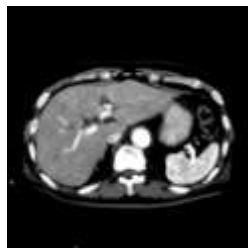


上肢動脈



頸動脈～脳動脈

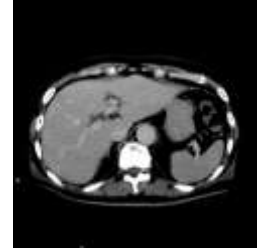
（急速静注により位相を変えて画像を作成した症例でHCCなどの確定診断に有効）



動脈相



門脈相



平衡相

（放射線科：担当者 鈴木、山内、尾関、河添、松本）

4月より地域医療連携室の構成メンバーが変わりました

今までは事務職の方5人で地域医療連携に携わる業務をおこなっていましたが、今年度より、看護師の桑原が専任の副室長として加わりました。

地域医療連携の看護師の役割としては、紹介や逆紹介患者の緊急性や状態について把握し、院内関係部門や他の医療機関へ情報提供と、その調整を行うことです。

また退院の際の支援、患者相談等、幅広い業務があります。患者さんを中心に、今まで以上に医療の連携がスムーズに行くような関わりを持っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

（地域医療連携室副室長 桑原千賀子）

私達が担当しています



後列左から 夏目、吉田、鈴木、北山
前列左から 村田、桑原